

(様式1)

授業科目 構音障害Ⅱ (器質)

科目コード番号

【担当教員名】 磯野信策	対 象 学 年	2	対 象 学 科	言語
	開 講 時 期	後期	必修・選択	必修
	単 位 数	1	時 間 数	30

【概要及び学習目標】

<概要>

顎・顔面、口腔、鼻腔の疾患に起因する言語障害について、原因疾患と言語症状の関連を理解し、医学的治療との密接な連携のもとで行う言語治療の方法を修得する。

構音と共鳴に関して音声学、音響学を十分に理解しておく必要がある。また臨床歯科医学、口腔外科学、形成外科学、耳鼻咽喉科学は関連医学として重要である。

<学習目標>

- ・鼻咽腔閉鎖機能と当機能不全について十分な知識を持つ。
- ・口蓋裂言語を診断し治療計画を作成することができる。
- ・顎、顔面の疾患に伴う言語障害とその治療法を理解する。
- ・患者とその家族の心理的問題を知り、対応策を考えることができる。

回数	学 習 の 主 題	学 習 内 容	学習方法
1	唇顎口蓋裂の治療	総合治療とチームアプローチ	講義
2, 3	口蓋裂言語	鼻咽腔閉鎖機能と当機能不全による共鳴の異常、および声門破裂音、口蓋化構音など口蓋裂に特有な異常構音の原因、聴覚印象、構音動態を理解する	講義と実習
4, 5	鼻咽腔閉鎖機能検査	各種検査法を知り、言語聴覚士が行う検査法を習得する	講義と実習
6, 7	異常構音の検査法	聴覚判定、視覚判定、器機を用いた検査法を習得する	講義と実習
8	検査・訓練機器	Nasometer, FNG, Visi-Pitch, 音響分析等の器機取り扱い法	講義と演習
9, 10	口蓋裂言語の治療	鼻咽腔閉鎖機能不全に対する医学的治療と言語治療および構音治療	講義と実習
11	口蓋裂類似疾患	粘膜下口蓋裂、軟口蓋マヒなど唇顎口蓋裂以外に口蓋裂言語を生じる疾患とその治療	講義
12	歯・咬合の異常、舌疾患、口腔腫瘍による言語障害	歯・歯列・咬合の異常、舌強直症、小舌症、大舌症等の舌疾患および口腔腫瘍（顎、舌）術後の言語障害とその治療	講義
13	症候群	顎顔面の奇形を伴う症候群の言語障害とその治療	講義
14	心理的、社会的問題	患者と家族の心理的、社会的問題とその対応	講義

【評価方法】

定期試験によって評価する。

【履修上の留意点】

【使用図書】

教科書・参考書等	書 名 等	著 者 名	発 行 所	発行年・価格・その他
教科書				
参考書	口蓋裂の言語臨床	岡崎恵子他	医学書院	1997年. 5000円 ISBN: 4-260-24362-4
	コミュニケーション障害の臨床6: 口蓋裂・構音障害	日本聴能言語士協会 講習会実行委員会編	協同医書出版	2001年. 3800円 ISBN: 4-7639-3026-5
	口腔顎顔面領域の異常と言語障害	伊東節子編著	医歯薬出版	2001年. 4500円 ISBN: 4-263-45518-5
	上記以外の参考書を随時紹介する			
その他 (プリント等)	プリント配布を随時行う			